

一般質問から

自民党県議団



阿部 弘樹 (福津市)

福津市の県消防学校校跡地は、地元活性化のために県の施設として活用すべきと考えるが、現在の検討状況を問う。

A 福津市にあった消防学校は、昭和48年の移転以来、延べ1万9千人の消防職員を養成してきた。跡地はJR福岡駅から1.2キロに位置し、周辺道路も整備されるなど交通の利便性に優れ、面積も3万7千平方メートルを超える。多様な用途への活用が考えられる県有財産であり、現在、公営または公共目的の利用について検討を行っている。



板橋 聡 (みやま市)

児童生徒の今後の学力向上の取り組みについて。

A 「未来社会の創り手」としての学力を育む大切さを、学校が地域・保護者と共通理解し機運を高めることが重要で、3月までに全小中学校が地域・保護者に丁寧に説明するよう働きかけている。平成29年度から中1を県版学力調査の対象に追加することで、小5から中3まで切れ目なく状況把握できている。併せて地区間交流研修を充実させ、効果的なマネジメントの具体例を県全体に浸透させていく。



松尾 嘉三 (春日市)

高齢者雇用の場の拡大や、70歳現役応援センターによる企業支援の現状

※()に掲げている質問は、一般質問の一部を抜粋したものです。※()は選挙区を記載

めている。また、生産コストの低減に必要なコンバインなど高性能機械の導入を進め、品質の高い米・麦・大豆を安定的に供給できるように、乾燥調製施設の機能向上や再編整備も支援している。



桐明 和久 (八女市・八女郡)

A 高齢者が活躍している事例を他の企業にも広げることで雇用の場を増やせると考えている。70歳現役応援センターでは、県内の企業を訪問。高齢者の積極的な採用事例などを紹介し、定年の廃止や延長など「70歳まで働ける制度」の導入を働き掛け、昨年12月末までに565社が制度を導入した。高齢者に適した職場環境や働き方を提案し、求人開拓を行っている。



片岡 誠二 (中間市)

小・中学校における英語指導力の高い教員の育成について。

A 英語教育の在り方や指導方法等を実践的に学ぶ「小学校教員の英語力・指導力向上研修」を実施し、小学校英語教育推進の核となる教員900名を育成。本年度から当該教員にスキルアップ研修を実施。中学校英語教員には、初任者の段階で全員に英検準1級を受験させるための補助を行い、読む、書く、聞く、話すの4技能をバランスよく育成する授業を英語で行うための研修を行っている。



江頭 祥一 (嘉麻市)

筑豊地域の水田農業の振興について。

A 筑豊地域は水田の割合が9割と高く、米が農業産出額の3割を占める。県は農家所得向上のため、消費者の評価が高い「元気づくし」、収量が多く外食・中食事業者から需要が見込まれる新品種「実りつくし」への作付転換を進



井上 博行 (福岡市博多区)

福岡・博多の歴史・文化財として評価することについて。

A 県の文化財として評価するには、消防伝統技術に関する文献などの史料調査、纏など消防道具の調査、江戸時代以降の火災に関する記録の調査など、体系的かつ詳細な学術調査が必要。関係団体の理解と協力を得て、無形民俗文化財としての価値を評価するための「記録選択」の手続きを行い、自治体などが行う学術調査や報告書作成に、専門的見地から指導助言に努める。



香原 勝司 (直方市)

地域の実情等に配慮した持続可能な運動部活動のあり方について。

A 「部員数の少ない複数校の生徒の合同活動」や「隣接する学校で種目が重ならないよう学校ごとに異なる種目を実施する拠点校方式」。「地域のスポーツクラブ等と運動部活動生が共に学校の施設を利用した活動」など様々な形態の部活動を持続可能なものとするため、学校と地域が協働・融合したスポーツ環境を整備し、本県の実情を踏まえた新たな部活動の在り方について調査研究を進める。



原中 誠志 (福岡市中央区)

「福岡国際マラソン」は、NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三氏と深い縁がある。コース周辺の観光スポットを番組等で取り上げることが、観光誘客につながるのでは。



佐々木 允 (田川市)

個人設置型浄化槽の適正な維持管理を強化すべきである。

A マラソンコースになっている博多駅前には金栗四三氏が揮毫された石碑や歴代優勝者の足形や名前を刻んだレリーフもある。この機会を捉えて、番組やマラソン中継などで石碑をはじめとする福岡の観光スポットを取り上げてもらえるよう関係者に働きかけていく。

A 70歳現役応援センターの設置



岩元 一健 (北九州市八幡西区)

愛知県で開催された体験型防犯教室などを参考に全国初となる常設の防犯体験施設を備えてはどうか。



渡辺 美穂 (太宰府市)

いわゆる民泊法で定義されている住宅の要件について。



大田 京子 (福岡市南区)

障がい者グループホームの充実のため報酬単価の引き上げが必要ではないか。

A 「住宅」とは、現に人の生活の本拠として使用されている家屋、入居者募集が行われている家屋、随時その所有者等の居住の用に供されている家屋とされている。使用実績が全くない新築住宅は、届出時点から継続して入居者募集を行わない限り「住宅」には該当しない。別荘などは、宿泊者がいる間住宅宿泊事業者が在室して管理業務等を行うか、管理者へ委託することで「住宅」に該当する。

A 浄化槽の所有者は、浄化槽法により毎年水質検査を受け、保守点検及び清掃を自ら行わなければならないとされている。本県における検査受検率は昨年度69.2%で約30%が未受検。未受検者には文書による受検勧奨を行い、保守点検などを行うに当たらない疑いのある管理者には立入検査を行い是正を指導。実態把握を徹底し、適正管理の指導を強化していく。



新開 昌彦 (福岡市早良区)

低出生体重児向けの母子健康手帳をリニューアルして頂きたい。

公明党

低出生体重児向けの母子健康手帳をリニューアルして頂きたい。

A 県は低出生体重児を育てておられるお母さん方の要望をもとに「小さな天使 親子手帳」を作成